

2022年2月17日「航空分野の2050年カーボンニュートラルに向けた取り組み  
に関するセミナー」 宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日のセミナーに、会場とオンラインで、大変多くの皆様方にご参加いただいております。誠にありがとうございます。

そして、本日のセミナーもそうですが、日ごろから当研究所の活動に対して手厚くご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

さて、本日のセミナーでは、「航空分野の2050年カーボンニュートラルに向けた取り組み」について取り上げます。

2050年にカーボンニュートラルを達成する上で、航空分野においては、「新技術の導入」、「運航方式の改善」とともに「持続可能な航空燃料 いわゆる SAF (Sustainable Aviation Fuel) の導入促進」が挙げられていることは、ご承知のとおりです。

一方で、航空分野はCO<sub>2</sub>の削減が困難なセクターのひとつとして捉えられており、短中期的/長期的いずれの観点においても、SAFの活用が重要であるとされています。しかし残念ながら、日本は未だ国産SAFの商用化に至っておらず、当面は輸入されたSAFに頼らざるを得ない現状にあります。

2050年のカーボンニュートラルの達成に向けたSAFの普及促進のためには、今後SAFの国内自給率を高めていく必要があります。それが日本の航空輸送における国際競争力の維持・向上に繋がります。そのためにも、航空業界だけではなく我が国全体の問題として、まさに国を挙げてオールジャパンで取り組んでいくことが重要となります。

年明けの1月18日に、当研究所として国土交通省で齊藤鉄夫国土交通大臣と面会、会談いたしました際にも、齊藤大臣から特に、航空分野のCO<sub>2</sub>削減対策としてのSAFの重要性についてご指摘がありました。

本日のセミナーでは、SAF の普及に向けた官民の取り組みや、課題、さらにはその解決に向けた示唆について、問題意識の共有を図って参ります。

まず最初に、当研究所の航空分野の CO2 削減検討委員会の委員、ならびに市場メカニズム小委員会の座長として、2 年間にわたり精力的な議論・検討を行っていた高村ゆかり東京大学教授から基調講演をしていただきます。

続いて、国土交通省航空局の大塚参事官および日本航空株式会社執行役員調達本部長の中川様によるご講演、そして当研究所の松坂研究員から報告を行い、その後、当研究所の山内所長のコーディネートにより、皆様方とのディスカッションと質疑応答を行います。

本日のセミナーを通じて、航空分野におけるカーボンニュートラルに向けた取り組み、特に SAF の導入促進について、今後どのような取り組みが必要とされるのかなど、皆様と共に考察を深めてまいりたいと思います。

運輸総合研究所としましては、今後とも気候変動対策を重要テーマとして掲げ、研究調査活動や政策提言を行っていくとともに、航空分野の CO2 削減に向け自ら行動できることは実行に移していく所存です。

最後に、本日のセミナーがご参加いただきました多くの皆様方にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶といたします。

本日はご参加いただきまして誠にありがとうございます。

以上